

オリンピック出場

世の中はワールドカップで盛り上がっているようだが、なんとこの35Rからもワールドカップ？に出場する人がいるのである！

右の記事は、地歴公民科でも定期購読している雑誌『地理』（通巻756号、2018年5月号）からの引用であるが、武藤くんが、カナダ・ケベックで行われる地理オリンピック日本代表として、7月31日～8月6日まで戦って行くのである。テレビで中継されることはないと思われるが（笑）、優勝したあかつきには、渋谷スクランブル交差点を占拠するくらいの勢いで、ぜひ応援したいところである。

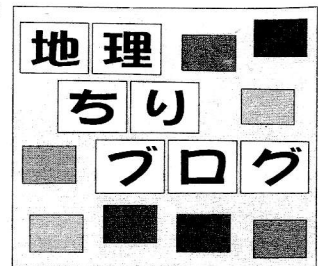
ちなみに、クルマを運転するようになってから地図とは親しんでいたのだが、今はカーナビ頼りで、すっかり地図を見ることがなくなった。便利になったが、その分地図が読めなくなった気もする。それでイイのかな～。

カナダ・ケベックでことし夏に開催される国際地理オリンピック2018（7月31日～8月6日）に出場する日本代表が発表され、3月21日、日本地理学会春季大会（東京学芸大学）の会場で表彰式が行われた（口絵参照）。国内予選を見事勝ち抜いて代表に選ばれたのは、〈写真左から〉武藤彰宏君（東京都立日比谷高校3年）、中尾俊介君（洛星高校2年）、長岡祐生君（ラサール高校3年）、佐藤光駿君

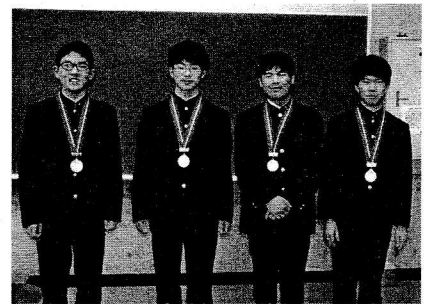
（早稲田高校3年）の4名。3月11日に神戸市ハーバランド地区で行われた3次選抜には、1400名を超える応募者の中から、1次試験、2次試験を突破した9名が参加。最初に行われた《読図テスト》では、神戸市を流れる湊川の流路を明治期に付け替えた理由について、新旧の地形図等を参考に、本大会と同じく英語で答える問題が出された。

地下街形成の意図を考え、改善点を提案する《意思決定テスト》に取り組んだ。意思決定テストは地理オリンピックの特徴ともいえる課題で、具体的かつ実現性のある提案が求められる。代表選手は6月・7月に予定されている強化研修を経て7月29日に日本を出発、ケベックに入ったあと、事前のフィールドワークを行って現地の特徴をつかみ、本大会に臨む。活躍を期待したい。

地理オリンピック代表決まる



地域の話、印象に残った出来事、イベント参加記、本誌の感想などテーマは自由。600字以内。郵送またはメール (chiri@kokon.co.jp) で。



日本代表に選ばれた4人
左から、武藤君、中尾君、長岡君、佐藤君



3次選抜のフィールドワークテスト（神戸市）

JR神戸駅周辺の傾斜地に作られた地下街を調査して、地下街床面の地形断面図と施設利用図を作り、各々の特徴を記す《地図作成テスト》に加え、